

総務文教委員会記録

令和2年7月15日（水）
09時58分～11時49分
全員協議会室

- 【委員】西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【事務局】下間書記
-

【議題】

- 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」
・6月8日の勉強会まとめ

2. その他

【議事の経過】

[09 時 58 分 開議]

西村委員長

全員出席で定足数に達しているので早速始める。
今日の議題は、前回の勉強会のまとめを西田委員、三浦委員のお二人にしてもらったので、それを報告いただき、また意見があれば出していただき、最終的にまとめる作業をしていき、一つの区切りをつけたい。
また、その他になろうかと思うが次をどうしていくか、何かよい講師や教材があれば。どこまで行くか分からないができるだけ具体化したいので意見を出していただきたい。

1. 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

・6月8日の勉強会まとめ

西田委員

まとめていただいているので報告をお願いします。

三浦委員

(以下、資料をもとに説明)

1ページ目は皆の気づき、ここで共有したこと、重要項目を書き出している。

今後委員会でどのような形で取り組むべきかを下段に書いている。

1、2、3とまとめさせてもらったが、県の重点項目は永見委員も言っておられたように4点ある。①幼児教育の環境整備、②先生たちの研修、③幼小の連携、小学校の接続、④家庭地域との連携の充実という4点がまとめられている。今回は3点にまとめているが、3の中に幼小の円滑な接続の項目を入れている。この部分のご意見が少なかったので一つの項目として置くには情報量が足りない判断してこちらに入れているが、基本的にまとめていくと、インプットがその4点に基づいてされていたので意見もおのずとそうなるのだが、今後いろいろな勉強会や意見のまとめをしていくには、この4点に沿って進めていくとわかりやすいかと思う。

西村委員長

今のまとめ案について、わからない点、あるいは補足・意見があると思うので、皆から忌憚なく出していただき、それを皆で議論しながら加えるなり変更なりしてまとめにいききたい。

牛尾委員

非常に上手くまとめていただいた。

西村委員長

他にあるか。これは聞かないとわからないかもしれないが、聞きながら思ったのは、例えば認定こども園も含めて、保育園は基本的に民営化されているが、市の子育て支援課が何か資料なり、支援なりの形で一緒にまとめて何かをすることがあるのかなと思った。

牛尾委員

保育園は全部民営化している。例えば職員スキルアップ支援とか。園の運営のために補助金は出しているが、職員研修のためにはお金は出していないのではないかと。予算書の中で見た記憶がないように思う。

下間書記

それはお金の面だけのことでなく、子育て支援課が民間保育園等と関係があるかということか。

西村委員長

例えば国レベルで方針や制度が変わっていくといった話を、県や市がイニシアチブを取って対象となる法人を集めて、変更点の説明等をやるような仕組みになっているか疑問に思った。

下間書記

市がいくらかやらないと国からの通達が直接全ての園には届かないので

はないかと思うが。

西村委員長

そのレベルの話だと県かなとは思ったりするのだが、日常業務の中でもあるのではないかと思う。

芦谷副委員長

今のことに関連して、働き方改革の関係で保育園側に手厚いものがある。問題は保育連盟が別個なので、市の旗を振った元に保育園であれば保育園の先生方の研修をやるというところまではいっていないと思う。問題は教育委員会との関係で、就学前教育をどうするかみたいな市の構えがしっかりあり、その中で幼稚園・保育園・こども園みたいなことがあればよいが、バラバラで。市の構え、体制の部分が弱いように感じる。

西村委員長

私は弱い強いというのではなく実態として、そのようなことが組織的、体系的になされているのだろうかという疑問に思った。それとも個々ばらばらの対応なのか。

芦谷副委員長

答弁では園長会議を開催してやっているとのことだった。

牛尾委員

保育園は、2回くらい400人くらいの前であいさつしただけ。認定こども園ができてから民保連が二つに分かれたから、市も控えているのではないか。平成19年か20年くらいに組織が分裂した。保育連盟が。だからサッカー大会にこども園は出てこないだろう。外されているから。民保連の大きな方からは案内が来るけど、こども園の方からは来ない。

西村委員長

直接これに絡んで思ったわけではないが、疑問としてあったので。結局、浜田市として保育なり、教育なりにどういう指導性を発揮していくのか、あるいはどういう環境を作っていくのかということでは私たちは考えないといけない。それが実体として、現場との関わりがどうなっているのかとふと思っただけで、この表現がどうのこうのということではない。

牛尾委員

市長の施政方針の中でも保育園教育とかそういうことに言及があった記憶がない。お金での支援はしているが、だんだん金額も増えているが、中身については聞いたことがない。

西田委員

幼児教育について、幼保いろいろ分かれていて、そこにも行ってない子もいて、市は所管でしか、こどもを見てない。教育委員会は教育委員会、福祉は福祉しか見ていない。浜田市としては、浜田市の傘のもとにすべての幼児がいるので、市としてのこどもを見る意識、基本的なことをきちんと確立させておかないとばらばらになるだろうと思っている。

牛尾委員

一番こどもの数が多いのは保育園であるのに、市が直接現場を指導するに至っていない。お金は出すが至ってない。一番大きい保育園についての管理監督や指導がされていないので、保育園なり小学校へつながらないとか、教育がなされていないという見方をしている。

ある幼稚園の園長先生で、元教育事務所の所長が、認定こども園でも幼稚園部と保育園部がある。理論的には分かっているが中はぐちゃぐちゃだと言われた。元教育事務所の園長が言うのだから、大変なことになっていると。それには市は多分関与してない。教育事務所には権利がない。おそらく小中で、教員の人事配置に携わるのみ。保育園はエアポケットのようなもの。けれどそこに浜田市のこどもたちの多くが行っていて、そういう状況に一番問題があるような気がする。

西田委員

今の教育現場や市の仕事の現場において、自分の目の前の課題や問題

があまりに多くて、その目の前の課題をクリアすることに時間もエネルギーも取られて、本当はもっと仕事の距離を置いて、大所高所を眺めながら子どもたちの教育は、小中一貫にしても、こういう形がよいという一つのデザイン、就学前から小学校、中学校まではせめて高いところから子どもたちの環境をどうしたらよいか見ないと。今はどの現場においても目先の課題に取り組むことに一生懸命のように見える。

牛尾委員

その辺の遠因が、10年経っても小中学校の成績が上がらないところにあるのではないかと僕は思う。因果関係はわからないが。昨日、水高生に小学校の問題を教えているという話もある。幼少期の人間の能力に差があるとは思っていないのだが、そうすると一番入り口、最大多数が行っている保育園の教育というのがどうも、面倒は見るがそこまで手厚くできないのかなど。それは、幼稚園は市が関与しているが、関与していないから。それは保育園を所管している健康福祉部にその役目がないのかもしれない。

西村委員長

今の浜田市の子どもたちの学力の低下のそもそもの原因が幼児教育のこの段階にあるのではないかという問題提起か。

牛尾委員

そう思っている。

芦谷副委員長

新聞記事に、就学前の幼稚園・保育園と小学校との連携を作りなさいという指示があって、確か島根県内は3割程度だった。幼稚園・保育園は孤立していて、そこが学校との連携も地域の連携も弱い。そういった面で言えば職員のいろいろな社会的要請などを喚起する意味も含めて、地域や学校との濃密な連携ができる仕組みの一つとして、幼稚園・保育園に目覚めてもらえば、次に進む方向性が見えてくるのではないか。幼保に社会に参加してもらい、揉んでもらい、幼稚園・保育園に自ら目覚めてもらって職員の質向上も図りながら教育を進めることなのかなど思っている。

牛尾委員

僕は原井幼稚園にずっと関わってきたが、正規職員が圧倒的に少ない中での幼稚園教育なのである。だから腰を据えて教員が教育現場で子どもと向き合う責任が、圧倒的に軽いわけではないが見えない。園長先生は囑託で変わるが、だいたいそういう見方。原井幼稚園が廃園になると聞いて署名運動をした際、初めて新人が1人来た。ほとんど新規採用なし。非正規職員で肝心なところを回している。そういう職員配置の問題が恒常的になっていて現在も続いている。これでよいのか。

西村委員長

それをこのまとめの中に入れていいのか。

牛尾委員

僕は入れてもよいかと思う。

西村委員長

それはそれで、突っ込みどころとしては面白い。ただ、どんどん広がっていく面もあるので。

牛尾委員

幼児教育について思ったのは、総点検してこの際やっておかないと、このまま放置してよいのかという問題である。議員もそれぞれ年齢も違うし、長く議員をされている方もいるが、その入替の中でも、幼児教育は誰が議員だろうがきちんととらえて言うべきことは言って、あるべき姿にしないと。成績不良の遠因がどこにあるのか。なぜ今日ここまでレベルが落ちたかの原因について言う人は誰もいなかった。お任せなのだろう。

西村委員長
牛尾委員
西村委員長

議論の価値があると思うが、ここは整理しておかないと。

それはお任せする。議会は合議体なので。

学力の問題を突っ込んでいくと、プロジェクトでも組んでやらないと、何年かがかりでしないと難しいと思う。半年程度で結論が出る問題ではない。

牛尾委員

上手くまとめておられるので、例えば同時進行という形で、テーマとして並列的にやっていくのも一つの考え方である。放置できない問題だとは思う。

西村委員長
牛尾委員
芦谷副委員長

牛尾委員は大きな問題意識を持っているということで。

思い込みかもしれないが。

牛尾委員が言われることは、この3番にまとめてあるように、「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」、これがあれば本人が前に進もうとする意識ができる。その先には見えている。あえて言わなくても、この10の姿を叶えるように環境なり、条件なりを整備すればよいと思う。

西村委員長

皆から他に意見は出ないか。私は最初の取組のところで、先ほどのことを思った。

市内保育園の民営化の影響により市の関与度といった部分で、別の問題として思うのは思った。この部分で言うと、執行部からのヒアリングとなっているが、これは、むしろどちらかと言うと保育園なり、現場の声を聞く方が重要ではないかと思った。執行部にこれを聞くと、執行部の都合のよいようにもっていかれそうな気がして。そうではなく現場から見た時に、家庭の中では認定こども園もできてくるし、現実的に。それが保育の実際面や経営面でどのような影響を自分らは受けたと感じているかそこが知りたい。

牛尾委員

民営化に関しては、民間保育園の園長たちが、公営と民間の給与体系が違いすぎるのが園長にとって辛い部分だった。市職員である保育士と民間の保育士ではボーナス等で差があり、1園でも残るとその問題がずっと尾を引くというので、民間保育連盟は全部渡してくれないと受けないと言って、当時の市の方針を変えたのだ。市としては公立保育園をモデルとして残す方針もあったが、結局は民間保育連盟の都合なのである。だからむしろ執行部になぜこうなったのかを聞くほうが、真実が見えると思う。

西村委員長

私は執行部から聞くなと言ったわけではない。執行部からも聞くべきだけど、むしろ現場からも聞くことが必要だと。なおかつ、ここには民営化の問題しか取り上げていないが、大きな変換としては、認定こども園がどんどん広がっている、その影響は強いのではないかと思う。保育園の世界では避けて通れないと思う。

牛尾委員
西村委員長

どちらも聞けばよい。

保育園や認定こども園からのヒアリングもあった方がよいと思う。森脇氏にはあの人なりの哲学がある。聞きに行ったら自信をもって考えを話された。

牛尾委員

これは自由討議の方がよいかもしれない。結局、僕らも原井幼稚園が閉園になる前に、保護者がもう少し遅い時間まで預かってほしいとか、給食を出してほしいとか。認定こども園は保護者が望む形を実現してい

る場所である。市はできない、できないと言っていて、だんだんそちらに流れていく。市立幼稚園がなくなった方がよいと思っっているのではないかと見える。こどものニーズと保護者のニーズにマッチしていない幼稚園があるわけで、そうするとマッチしたこども園の方へ行く。まして今は料金がかからないのだから。

西村委員長
牛尾委員
西村委員長

今のは幼稚園の話か、保育園の話か。

両方だ。認定こども園だから。

私は1番の取組のところに、民営化の影響、認定こども園ができたことの影響について、とすればいいし、インプットの形式は、保育園、こども園、あるいは幼稚園それぞれにヒアリングするのを入れてもらえばそれでよい。

牛尾委員
西村委員長

1番のくくりではどうか。他に意見はないか。

十分上手くまとめてあるのでよいのではないか。

3番目はこれでよいか。公立幼稚園と保育園。正確に言えば幼稚園は私立もあるのだが。

三浦委員
西村委員長
三浦委員

公立の幼稚園や保育園が必要なのかという意味である。

公立は保育園にもかかってくるのか。

公立であることがどうかかわってくるのかということ。公が教育の部分をどのように担うべきなのかを考えないと、今後の公立幼稚園をどうするのか整理ができてなかったのかなという意味合いでここにこう書いた。

牛尾委員

よい問題提起だと思う。民営化する時に1園保持する方針を曲げたことに問題があるのだから。

西村委員長
芦谷副委員長

それならよくわかった。

公立はかくあるべきみたいな、こうでないといけないという議論が往々にしてありがちなのだが、これだけ社会が進歩してくると、何があっても、皆違って、皆よいみたいなどころがあつて。大事なものは公立だろうと認定こども園だろうと幼稚園だろうと保育園だろうと、就学前教育ということ、大きな旗のもとで行政がいかにか全体掌握して、その中で違いがある部分は競い合いながら、就学前教育の実が上がるようなことを思ったりして。何が何でもこうでないといけないというのを超えて、そういう役割が行政にはあるのではないかと思った。

西村委員長

私は公立の保育園がないというのは、やはり致命的弱点としてあると思う。ノウハウ一つとっても、現場にわかる人がいなくなる。経験がないし。これは決定的に弱い部分。指導など実際にできないと思う。

牛尾委員

当時の職員は皆、職転した。当時の職員にヒアリングするのもよいかもしれない。あれはいつ頃だったか。

西田委員
牛尾委員

平成14、15年頃ではないか。

もう亡くなったが当時の議員が、保育園はこうあるべきだというポリシーがないといけない、そうしないと、民間保育園が悪いというのではなく、民間保育園の経営者によって、なし崩し的に、職員の待遇も含めて崩れていくと。お金がないからボーナス払えないよとか、そういうレベルになった時に、モチベーションが下がった分、こどもたちに対してもモチベーションが下がるだろう、それがあつてはいけないと言われた

- 永見委員
西村委員長
牛尾委員
永見委員
- 西村委員長
永見委員
西村委員長
永見委員
- 牛尾委員
- 西村委員長
芦谷副委員長
- 西村委員長
芦谷副委員長
西村委員長
牛尾委員
- 西村委員長
牛尾委員
西村委員長
牛尾委員
- 西村委員長
- 牛尾委員
- のを記憶に残っている。
- 幼稚園は公立と私立と両方ある。職員の処遇は違うのか。
- それは違うだろう。
- 片方は市職員、片方は民間なので、違う。
- 市としても保育園に対する関わりと、幼稚園は公立と私立があるが、どの程度の関わりの違いがあるのか分からない。経営云々にしても、多少状況の違いがあるのはどうなのか。
- どう、とは。
- 公立と私立とでは市の関わりが当然変わってくるのではないか。
- それはわからない。
- そのあたりがどうなのかなと。幼稚園の関係でもいろいろ説明を受け
る中で、人数等、経緯を話してもらっているが、公立には何人で、私立
にはだいたい何人くらいという説明をいただいているので、その辺りの
市としての関わり方はどうなのかなと思っている。
- 幼稚園については文科省の関係に入るのだから、公立だろうが私立だ
ろうが、教育内容については一定のレベルは保たれているだろうが、職
員の処遇は当然差があるだろう。民間は収益によって変わるだろうが、
公立は職員なので一定レベルの給与がある。だからそういうところが保
育園連盟が当時、1園でも公立があつたら職員の待遇に差が生じて困るの
で全部民営化にしたいと要望したのだ。すべて民営化されたら、どの経
営体も似たり寄つたりの待遇で平準化する。直営がないから。
- 他にないか。
- インプットの形式は執行部へのヒアリングに加え、それぞれからヒア
リングするのか。
- いや私が言ったのは一番上の分だけ。
- 他にも幅広く意見を聞くのはよいと思う。
- それはやっていく過程で出るかもしれない。
- 民間保育園連盟の中でも、こども園を持っているところとの、こども
の奪い合いは実際に起きている。園児の奪い合いが実際ある。一時、う
みかぜ保育園が随分集めたが、今は激減していて職員もやめという話も
聞いた。そのようなことがあれば、まとまらない。全ての保育園
- 他になければ2ページ目に行く。何かあるか。
- 頭がやっぱり一番大事だろうと思う。
- 頭とはどういう意味か。
- 人材育成のこと。これは関わりを持たないと。ここは注視する必要があ
ると思う、入り口論で。
- 私は、幼稚園の方は結構、教育センターの方が割と時間を取って研修
に人員を割けるという話だったが、保育園はなかなか苦しいという現場
の状況が話されていた。それならば先走るが、市が果たす役割として、
全保育園に1名増員しろという話ではなく、研修用に市に保育士を1、2人
抱えながら回していくような人材の活用方法もあるのではないかと個人
的に思った。それが政策につながる部分かなと思ったのだが。
- 民間保育園が、自分のところの職員を研修に出しにくい現状がある。
人が足りない。条件も含め。そこまで手が回らない。一方、幼稚園はそ

うではない。だから委員長が言われたようなことも悪いことではないと思う。それ以外の方法も含めて考えていく。

西村委員長
牛尾委員

最終的には政策につながらないといけない。

そういう政策を民間保育連盟側が求めているか、それも大事だと思う。考えていないというならそれはそれで。調査するべきだと思う。

芦谷副委員長

研修費みたいなものの別枠での充実と、あわせて研修した保育士の相互交流、場合によっては園の中で人材の有効活用も必要ではないかと思う。

牛尾委員

形はある。人間関係が合わず、園を移動するというのは民間保育園で結構聞いている。そういう人事異動はある。

西村委員長
牛尾委員

そういうのは介護の世界でもある。

例えば広域で言えば、スキルアップのために社会福祉士の資格を取るためにお金を出しているが、ところが資格を取るとヘッドハンティングの対象になるから自分のところの職員は出したくない、という経営者もいる。公立保育園があると、公立保育園と幼稚園と簡単にできるのだが、その辺があるのだろう。

西村委員長

思うに、△印の2番目に対応するのはどこになるのか。具体的にはドキュメンテーションとは何か。

三浦委員

記録。

芦谷副委員長

ドキュメンテーションというのは記録。記録というのは、先生方がされるということか。

三浦委員

こどもたちの日々の様子の記録。写真であるとか。いくつかのサンプルを見ると非常に面白い。それを先日、県の方が言っておられた。

西村委員長

取組で言うと上段の、コーディネーター設置の可能性を探る上でも、現場がコーディネートを受けやすい環境がないと辛いような気がした。実際にはどういうやりくりをして、教育センターの方々が回られているのか知らないが、受ける側はどうなっているのか気になった。そこを入れたい。

牛尾委員

直営ならコーディネーターを入れるのは簡単だろうが、民間はすんなりいかないかもしれない。

西村委員長

実際には各園を回るのだろう。保育園で実際に保育をしている所へ向かっていくわけではないと思う。

下間書記

現場に行って保育の様子を実際に見ながら巡回するようなイメージだったと思う。

西田委員

保育士の方々に対する指導。

西村委員長

現場を見て、アドバイスするのだろうか。それならそこまで考えなくてもよいかもしれない。

牛尾委員

ルールを守っているかどうかも含めて見るのでは。県に聞けばよい。どういう仕事なのか。

芦谷副委員長

コーディネーターはスーパーマンではない。保育園側の気づき、進化のきっかけくらいのもの。他からの意見を聞いて学びなおして、次へ続ける。

牛尾委員

コーディネーターが来たからといってすぐ変わるわけではない。スーパーコーディネーターはいないのかな。そういう人の話を聞くのも面白

いだろう。

西村委員長

いずれにせよ現場でアドバイスして終わりではなく、座学みたいなものが全くないようなものはイメージしてなかった。

牛尾委員

ここでわからないものを議論してもしかたない。

西村委員長

いずれにせよ受ける側がどう受け止めているかが知りたい。

芦谷副委員長

コーディネーターを派遣して成功した例、失敗した例を聞けばよい。

下間書記

浜田市も全部を回ってもらいたい思いがあると言っておられた。原課はどういうことをやるか当然知っているはずなので、執行部に聞いておいて、その後に現場に聞くのもよいかもかもしれない。

西村委員長

それはそうだ。そんなことも知らないのかということになっても困るので。現場の先生はおそらく喜ぶだろう。特に保育士は、年間の、自分らの育成計画という視点で見たとき、数年に1度の割合で回ってくるような教育機会があるのではないかと思うのだが。

牛尾委員

委員長、資料にインプット形式のところに書いてあるから全部目を通してから議論しないと、無駄な議論をすることになる。

平成22年に三条市へ視察に行ったのは誰か。

西田委員

はい。

下間書記

はい。

西田委員

当時、委員長だった。西村さんも行ったはず。

牛尾委員

新潟県は安全だから行ってみてもよいかもかもしれない。

西田委員

東京経由になるが。

西村委員長

2ページ目についてはよいか。

(「はい」という声あり)

3ページ目についてはどうか。

牛尾委員

この中では4番目について現場が大変なようだが。発達障害にもいろいろな種類がある。原井幼稚園の最後の卒園式には来なくてくれと言われた。こどもが緊張すると暴れるかららしく、言われてショックを受けた。

三浦委員

ふるさと郷育と10の姿を照らし合わせた検証というのが上には書いてあって、下には取組としてそれが抜けている。その検証ということで。インプットの形式としては、これは執行部にふるさと郷育のいまのプログラムと10の姿をどのように意識してやっているのか聞けばよいのかなと。それを三つ目に加えておいてほしい。

芦谷副委員長

10の姿をやはり、保育園、幼稚園の関係者だけでなく、学校も地域社会も、大人も理解するのが大事だろう。幼児教育の危険性というか。

牛尾委員

この件は、ローカルの方が地域をあげて熱心にこどもの育ちに関わりを持つが、市の中心部は、全くそういう気配がない。ゼロではないかもしれないが。浜田公民館でそういうことをやっているかというのと、そこまでいかないのではないか。美川は熱心でそれを代々見ている。浜田公民館と石見公民館はエリアが広すぎるから。

西川委員

浜田公民館は二中校区ですが、若い主事が頑張っておられる。

上野委員

認定こども園ができる前は公民館や高齢者クラブに頼まれていろんなことをしていたが、認定こども園になってからは人数が増えてなかなか外へ出る機会がない。公民館も地域の人も頼まれればすごく喜ばれる。福祉施設へ認定こども園から来てくれると、高齢者の方が本当に生き生

きする。そういう関わりが大事ではないかと思う。こどもも大人も一緒に元気になる。それが最近少ない。頼まれれば高齢者クラブも喜ぶのだが、少なくなってきた。

昨日、中学校の評議会と地域代表が集まって学校で話し合いがあった。昔と違って、小学校との連携はあるがその下との連携がない。保育園の関係は全く分からない。昔はもっと地域全体でこどもといろんなことをしていたが、そういうことがだんだん少なくなったので、もっとやろうという話が出た。

西村委員長
上野委員

何の集まりか。

民生委員や社会福祉協議会も集まって、中学校のこどものこと、小学校のこども、保育所のこどもについて話をする。昔よりもつながりが消えているのではないかという話があった。昔は保育所とのつながりもあったのに、それが薄れている。先生らもどう言っているかわからない、僕らも聞くしかない。

西村委員長

たぶん、地域とのつながりはどこも薄くなってきているのは間違いない。

上野委員
芦谷副委員長

何かつながりたい気持ちはあるのだが。

間を取り持つコーディネーターが要る。更に進んで言えば、地域の側にも、市民にも企業にも、例えば市場の主催者が大人から中学生、小学生、幼稚園のこどもまで、ここに来てもらって説明する、提案するようなこと。幼稚園側が探して行くというより、逆に事業者、企業、地域側が提案するような機能もあればよい。地域社会がそれを提案するような。

牛尾委員

今の話は、各学校によってやっている。地域の人材を教師にする取組を。

2、3年前に教育長と幼稚園について話したのだが、浜田の幼稚園教育として、田舎というか森の幼稚園とまちの幼稚園の二つは残したい。二つ残すのはやはり1園だと人事交流がないからどうしても組織運営が陳腐化していくと。だから絶対に二つは必要だろうと言っていたが、最近はやわなくなった。そういうことは必要かと思う。森の幼稚園とまちの幼稚園の機能が同じような幼稚園が一つあればそれはそれでよいのだが。教育委員会自身も、今年初めに議員の意見集約があったが、迷っているのかもしれない。こどもは減っていくし。もしかしたら柱になるようなものがないのかもしれない。全部民営化すれば楽だし。お金だけ出せばよいという意識が根底にあるように見えた。昨日の教育委員会の話を聞いていても、僕の勘ぐりすぎかもしれないが。

西村委員長

他にないか。では3番目は先ほど言われた、10の姿とふるさと郷育の検証という項目を1項目加えるということで。それでよいか。

(「はい」という声あり)

ではそのように訂正をかけていただき、最終的なまとめにしたいと思う。よろしく願います。

2. その他

西村委員長

次のステップということで、何をするか、少し意見を述べていただけたらと思う。いかがだろうか。

牛尾委員

前日も言ったと思うが、津和野や周辺の聞き取り、そしてしかるべき所へ行きたい。現場を見ながら、僕らに現場の姿をインプットしてから議論して、意見集約した方がよいのでは。これ以上机上の議論をしても、レベルは上がらないように思う。

西村委員長

現場に出かけて話を聞くという要望が出たが、他にはどうか。

芦谷副委員長

この中にあったようにヒアリングというのがあったから、あれを踏み込んで、体系的に組んでいけたらいい。月に2、3件、あるいは週に1回とか。

西川委員

今日まとめてもらった分で、ヒアリング等が残っているので、それが次のステップではないかと思っていたのだが。

西村委員長

その具体化というのが先ほど言われた。それは今までも出ていた話である。

三浦委員

先ほど、この資料の説明をさせてもらった後に私見を述べたのだが、県が示す四つの重点項目があって、今回のまとめは3点になっているが、それぞれのところを整理していく必要があるのかと思っている。

それぞれのテーマの中で、この前の勉強会を終えて皆が意見を言ったことが今回のまとめなので、ここを一つずつ片づけていくことが必要なのだろうと思う。

例えば1の幼児教育の環境整備が重要ということについて、今後の取組として四つ上げているが、執行部のヒアリングは事前に項目を伝えれば1回で終わるし、そのヒアリングをする中でその場で聞きたいことをテーマに沿ってやっていった方がよい。

視察もよいと思う。仮に津和野に行く時は、社会を意識した環境づくりが効果的というテーマの中で、これを持って行った方が、もちろんそれに限らず見えてくる部分があるのでよいと思うが、テーマを設定して行ったほうがよい。幅広にやると意見集約と議論が広がってまとめられない。ずっと自由討議が続く形になるように思う。

テーマについて、重点項目の四つとするのか、今回まとめに出した3点なのか、あるいはもっと細分化したテーマを出すのか、そのような感じで進んだほうがよい。

もう一つ、ここには出てないが、幼稚園の統合の問題、市が方針を出そうとしているという話があった。教育長も、委員会でこのような議論が進められていて、そうであれば、委員会としての意見を踏まえて方向性を出すというようなスケジュールが望ましいと言っておられた。

そういう時に幼稚園の統合問題はどのタイミングで委員会としても出す必要があるのか。もしくは出さないのか。ということを見ると、スケジュールにどう落とし込んでいくかもあわせて検討しておく必要があるのではないか。執行部の方向性が出た後に委員会としてまとめても遅い。

西村委員長

月曜日の説明会があった後に教育長が私のところへ来られ、9月に教育委員会として方針を出したいのだと。それが条例なのか何なのかまでは私も聞かなかったが。それで、こちらの進捗を聞かれたので、私としては今の進捗だとその9月の方針たるものが何かわからないが、少なくともそれに合わせてこちらが提言するような状況にはおそらならないと思うと答えた。それが例えば、統合問題であっても、そのことについて集

中的に毎週1回集まってするということになれば別かもしれないが、日程的に事実上、8月を残すのみの段階に来ているので、そこへ割り込む形でこちらに意見を述べさせてくれとは言えないのかと思います、そのように回答した。中身が何かを聞けば答えてくれるのかもしれないが。

芦谷副委員長

教育長の思いは、幼稚園の統合問題に限定した話か、それとも全体にかかる話か。

西村委員長
牛尾委員

そこまでは私もあえて聞いていない。勝手に統合問題かとは思ったが。流れ的には議員の意見を聞いたり、幼稚園の定員割れも続いているので、統合問題である可能性は高い。1番で言えば4番目の、市独自の幼児教育環境が整備されていくことは定住対策にとっても効果的という中で引っ掛けて、委員会として浜田の幼稚園教育はこうあるべきだ、くらいのことは言ってもよいのではないか。

西村委員長
芦谷副委員長

統廃合の計画ではないか、と感じているが。先を急いではいけないが、ざっくり言えば1番目のところで幼稚園問題、保育園問題を含め、市の構えが柱の一つになって、その中に公立幼稚園の統廃合問題も出てくるように感じた。二つ目で人材育成にいくとすれば、市の予算化のことや人材育成のこととが一つと、三つ目は地域との交流や支援といったことが、この段階で言えば就学前教育のことでこの委員会として三つの柱があると思っている。私案だが。

牛尾委員

せっかく作ってもらっているので、順番でこなしていこう。それが一番の近道ではないか。

西村委員長
牛尾委員
西村委員長

それでよい。皆がそれでよければ。確実に実行していこう。問題があれば都度考えればよい。ヒアリングをやるにしても、何を。先ほどあったようにあらかじめこちらから聞く内容を出しておかないといけない。

牛尾委員

取組に書いてある。このスケジュールどおりにとりあえずやってみよう。何を聞くかもこれに書いてある。せめて週に1回、皆の日程があればやって。

下間書記

まとめの三つの項目ごとに執行部に聞くのか。まず三つの項目について1回ヒアリングするのか。

牛尾委員
下間書記

1回、委員会でも来てもらって聞けばよい。そうすれば1回で終わる。はい。そしてその次は現場で聞いて、また必要があれば執行部と意見交換するようなイメージで。

牛尾委員
西村委員長

8月いっぱいまででできる実現可能な目標を立てよう。では、まずは執行部に先に聞くと。そしてヒアリング内容はここに書いてある取組の中の内容でよいか。該当するものを全てするということで。

下間書記

委員が疑問に思っていることも委員長がまとめられたものもあるので、それも提供したらいいかもしれない。具体的なものがあつた方が執行部も答えやすいと思うので。

芦谷副委員長
西村委員長

このまとめの資料を示して、よく読んでおいてくれと。それは失礼である。ではこの1から3までのまとめと、今までに出たものをピックアップしてやる。それを8月中にするということか。

牛尾委員

8月中にやる。8月は週1で予定を組んで。できれば8月中に津和野まで

- 芦谷副委員長 行ければいい。それくらいの意欲をもって計画立てないと実現しない。
先方の都合もある。9月までくらいのスケジュールを立てておいた方がよい。
- 下間書記 執行部へのヒアリングは、執行部さえ大丈夫であれば、委員会側の素材はそろっているので、7月中とといったできるだけ早いうちにやろうと思えばできると思う。
- 西村委員長 そういった早いうちに執行部にヒアリングという形ができれば、4、5回できるのか。
- 下間書記 執行部へのヒアリングは8月の頭でなくて、7月の終わりでも相手が可能であればよいのか。
- 西村委員長 それはそうだ。
- 下間書記 では、早いうちに執行部と委員会を開催して、ヒアリングをして、そこで現状をしっかりと把握して、その後に現場。それは保育園連盟かもしれないし、公立幼稚園かもしれないし、認定こども園かもしれないし、津和野かもしれないということで。7月中なら29、30、31のどこかだと思う。
- 芦谷副委員長 7月中に1回、盆前に1回、盆すぎに1回程度がよい。
- 西村委員長 では具体的に決めよう。
- 牛尾委員 執行部の都合もあろう。29、30、31で執行部に打診しよう。
(以下、日程調整)
- 下間書記 では、7月29日の午前中、7月30日、7月31日、8月3日午前中、8月7日午後の日のいずれか1日の2時間程度を執行部へのヒアリングの委員会、その後、別日で委員だけの委員会をすることで、執行部と日程調整をさせていただき、調整後に皆さん連絡する。
- 西村委員長 執行部への質問内容は私と次長とで相談して決める。
では、以上で特別委員会を終了する。

[11 時 49 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊟